

4月4日に、

御坊市長、御坊市会議員16名全員に、次の申し入れを送りました。

- ・御坊市長 柏木征夫様
- ・御坊市議会議員 森上忠信様
- ・御坊市議会議員 藪浩昭様
- ・御坊市議会議員 増田亮様
- ・御坊市議会議員 松本亀吉様
- ・御坊市議会議員 田端範子様
- ・御坊市議会議長 上田季児様
- ・御坊市議会議員 西晴男様
- ・御坊市議会議員 向井孝行様
- ・御坊市議会議員 中野武一様
- ・御坊市議会議員 坂本守様
- ・御坊市議会議員 佐野義機様
- ・御坊市議会副議長 西本和明様
- ・御坊市議会議員 谷口重美様
- ・御坊市議会議員 保田保様
- ・御坊市議会議員 山本清司様
- ・御坊市議会議員 楠本文郎様

使用済核燃料中間貯蔵施設を誘致しないでください 先送りの御坊第2火力発電所計画を中止してください

日高原発に反対する大阪の会（日高の会） 久保 きよ子

私たちは、原発から出る使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設推進に反対します。

私たちは、1979年の米国のスリーマイル島原発事故を契機に、「危険きわまりない原発は、ふるさとはいらない」と声を上げ、関西電力株式会社が推し進める日高原発建設計画に反対してきました。

この日高原発建設計画は建設計画発表以来、日高町の住民に大混乱をもたらしました。多くの町民は原発計画に批判的でしたが、金に目がくらんで計画に荷担する人たちも居て、「賛成」と「反対」で町が対立しました。しかし、ふるさとの自然を守り、放射能汚染をもたらす原発を拒否し、安心して生活ができる町にしようという声がチェルノブイリ事故以降、一層高まりました。その結果、1988年に比井崎漁協組合が「原発の事前調査受け入れ」案を廃案にし、日高町も原発建設計画受け入れを白紙撤回しました。

この原発建設計画問題は、十数年も前に反対運動の勝利で決着しています。ところが、今度は、原発から出る使用済核燃料を30～50年間貯蔵するための施設を御坊に誘致する動きが報道され、非常に驚いています。日高原発建設計画で生じたことを教訓にすべきです。御坊市周辺の住民の間で、またまたいがみ合うような混乱を持ち込むことは、許されません。

この施設は再処理工場で再処理するまでの「中間貯蔵」だといわれていますが、高速増殖炉「もんじゅ」やプルサーマル計画が破綻している今、一旦貯蔵を引き受けてしまえば、どこへも持って行きようがなく、半永久的に御坊にとどまるしかありません。関電の1基の原発から排出される使用済核燃料が、御坊に集中することになってしまいます。

原発から出る使用済核燃料は、猛毒で核兵器の材料になるプルトニウムや死の灰が大量に含まれ、何万年も放射線を出し続けるやっかいなしろものです。使用済核燃料からは強力な放射線が出ているため、近づくと急性放射線障害で急性死します。そのため、大きなプールや鋼鉄製の容器に入れて貯蔵するのです。プールや容器も、何十年、何百年かのうちに腐食がすすみ、破壊さ

れ、放射能が漏れ出す危険があります。

原発の運転開始から30年以上経ちますが、原発の安全は確保されず、むしろ重大事故が多発しています。1979年の米国のスリーマイル島原発事故、1986年の旧ソ連のチェルノブイリ原発事故、1999年の関電美浜2号炉蒸気発生器細管のギロチン破断事故、1995年の「もんじゅ」ナトリウム漏洩火災事故、1997年の東海再処理工場火災・爆発事故と続き、1999年のJCO臨界事故では作業員2名が急性放射線障害のため治療の甲斐なくヒバク死しました。周辺住民の多くもヒバクし、健康被害やPTSDに苦しんでいます。そして、今回の東電データ改ざん問題では、1980年代半ばから20年近くにわたり、東京電力が原発の検査で見つかったひび割れを隠し、不正行為で国の検査をパスし、国もそれを見抜けず、国への内部告発者を東電に売り渡す行為すらしていました。

国や電力会社はこれまで「原発重大事故は起こらない」と言ってきたことを翻し、「重大事故は起こりうる」と居直り、原発に伴うリスクを甘受するよう私たちに迫り、原発の運転を強行しています。原発の重要機器に少々のヒビがあっても修理しないで運転が続けられるよう法律を改悪するまでに至っています。使用済核燃料中間貯蔵施設の建設計画を推進する人たちは「貯蔵施設は保管だけなので危険性はない」と言っているようですが、一体誰がこれを信じるのでしょうか。

「日本列島は地震の活動期に入った」と言われています。東南海・南海地震が起ると予測され、大きな地震動や津波が襲うと警告されている地域に、中間貯蔵施設の建設など許されないのではないのでしょうか。御坊沖の埋め立て地に予定される貯蔵施設を津波が襲い、使用済核燃料貯蔵容器が海中へ水没すれば、豊かな漁場が深刻な被害を受けることになります。

私たちは、御坊市沖に中間貯蔵施設を誘致するなどとてもないと考えています。絶対に建設計画を受け入れないよう強く申し入れます。

さらに、今回の使用済核燃料中間貯蔵施設誘致の動きは、先送りになった御坊第2火力発電所建設のための御坊市沖埋め立てを促すためでもあると報じられています。しかし、この御坊第2火力発電所では燃料として初めてオリマルジオンを使う計画であり、放射能汚染とは異なる新たな化学汚染がもたらされる危険があります。オリマルジオンは「汚い燃料」と呼ばれ、燃やすと、環境中に有害な物質が排出されます。界面活性剤なども利用するので海に有害な物質が垂れ流されるおそれもあります。

御坊第1火力発電所では、すでに煙害と疑われる被害が周辺に出ています。1984年9月に1号機、11月に2号機、85年3月に3号機が運転が開始されました。その後86年から山桜が枯れ始め、杉、桧、梅と順に枯れ始めました。梅の日本一の生産地を誇る南部梅林の梅枯れが問題となったのもこのころからです。関西電力や和歌山県は「梅枯れの原因は火電の排煙ではない」と言っていますが、火電が稼働し始めて以降、著しい梅枯れが発生している事実をどのように受けとめているのでしょうか。また、美浜漁協が行っている稚貝の養殖が大打撃を被るなど、温排水によると思われる環境変化が問題となってきたのもこのころからです。御坊第2火力発電所建設によるさらなる環境汚染は、農作物生産地や漁業に深刻な影響を及ぼしかねません。

紀の国は、自然の恵みの豊かなところですが、農作物がよく育ち、黒潮が育む豊かな漁場でもあります。もうこれ以上、海や大気を汚してはなりません。危険な使用済核燃料中間貯蔵施設を誘致しないでください。先送りになった御坊第2火力発電所計画をそのまま中止してください。